

「高齢者のための国連原則」

1991年12月16日 国連総会決議・採択

＜各国政府が自国の政策プログラムに組み入れるよう要請＞

自立：(independence) 高齢者は、

- ・収入や家族・共同体の支援及び自助努力を通じて十分な食料、水、住居、衣服、医療へのアクセスを得るべきである。
- ・仕事、あるいは他の収入手段を得る機会を有するべきである。
- ・退職時期の決定への参加が可能であるべきである。
- ・適切な教育や職業訓練に参加する機会が与えられるべきである。
- ・安全な環境に住むことができるべきである。

参加：(participation) 高齢者は、

- ・社会の一員として、自己に直接影響を及ぼすような政策の決定に積極的に参加し、若年世代と自己の経験と知識を分かち合うべきである。
- ・自己の趣味と能力に合致したボランティアとして共同体へ奉仕する機会を求めることができるべきである。
- ・高齢者の集会や運動を組織することができるべきである。

ケア：(care) 高齢者は、

- ・家族及び共同体の介護と保護を享受できるべきである。
- ・発病を防止あるいは延期し、肉体・精神の最適な状態でいられるための医療を受ける機会が与えられるべきである。
- ・自主性、保護及び介護を発展させるための社会的及び法律的サービスへのアクセスを得るべきである。
- ・思いやりがあり、かつ、安全な環境で、保護、リハビリテーション、そして、社会的関わりが持てる施設を利用することができるべきである。
- ・いかなる場所に住み、あるいはいかなる状態であろうとも、自己の尊厳、信念、要求、プライバシー及び、自己の介護と生活の質を決定する権利に対する尊重を含む基本的人権や自由を享受することができるべきである。

自己実現：(self-fulfilment) 高齢者は、

- ・自己の可能性を発展させる機会を追及できるべきである。
- ・社会の教育的・文化的・精神的・娯乐的資源を利用することができるべきである。

尊厳：(dignity) 高齢者は、

- ・尊厳及び保障を持って、肉体的、精神的虐待のない生活を送ることができるべきである。
- ・年齢、性別、人種、民族的背景、障害等に関わらず公平に扱われ、自己の経済的貢献に関わらず尊重されるべきである。

1999年は国際高齢者年。International Year of Older Persons 1999



「国際高齢者年」とは

私たちの住んでいる地球は、いま、全世界的に人口の高齢化が進んでいます。そこで、1992年の国連総会において、1999年を「国際高齢者年」にすることが決まりました。

「高齢者のための国連原則」(1991年国連総会で採択)を促進し、政策及び実際の計画・活動において具体化することを目的としています。

Towards a society for all ages
International Year of Older Persons 1999

すべての世代のための社会をめざして

高齢者のための国連原則

自立 independence

- 高齢者は、収入や教育、社会的な支援及び自給能力を備えて十分な権利、大、自給、衣服、医療へのアクセスを得るべきである。
- 十分な収入や教育レベルを得る機会を有するべきである。
- 高齢者の生活への参加が可能な方法である。
- 適切な住宅や職業訓練に参加する機会が与えられるべきである。
- 安全な環境に生活することができなければならない。
- 可能な限り長く健康に生活することができなければならない。

参加 participation

ケア care

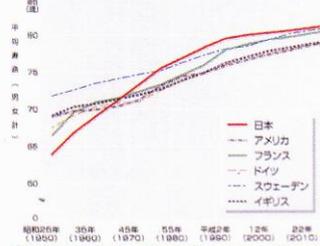
- 高齢者は、家族及び社会的な介護と保護を受けなければならない。
- 家族を助けること、自己、他者、経済的困難を軽減するための活動を受け取る機会が与えられるべきである。
- 自まつ、保護及び介護を受けるための社会的及び法律サービスへのアクセスを得るべきである。
- 思いやり、尊厳、かつ、安全な環境で、保護、リハビリテーション、社会的及び精神的困難を軽減する機会を得ることができなければならない。
- 十分な報酬に任せ、あるいは十分な報酬でなくとも、自己の尊厳、信念、要求、プライバシー及び、自己の健康と生活の質を決定する権利に対する尊重を他国の人権や自由を享受することができるべきである。

自己実現 self-fulfillment

自己実現 self-fulfillment

- 高齢者は、自己の可能性を最大限まで発揮できるようにすべきである。
- 社会的な権利、文化的、精神的、経済的資源を利用することができるべきである。

先進国諸国の平均寿命の推移及び予測



人生80年時代の到来

我が国の平均寿命は伸び続けてきており、1997年には男性が77.2歳、女性が83.8歳と世界でも最高の水準に達しています。今では男性のおよそ5割、女性のおよそ7割は80歳まで生きられると推定されています。こうした長寿をみんなが暮らせるような社会を築くことが、これからの重要な課題です。



活力ある高齢社会のために

高齢社会をいきいきとした社会にするためには、私たちが高齢期になっても、就業や学習やボランティア活動などを通じて、社会とのかかわりの中で生きがいのある生活を送れるようにしていくことが大切です。国際高齢者年をきっかけとして、中高年の方も若い世代も、さらたため自分の高齢期のプランを考えたり、違った世代との対話や交流を一層深めていきましょう。

尊厳 dignity

- 高齢者は、尊厳及び保護を持って、身体的、精神的、経済的困難を軽減された生活を送ることができなければならない。
- 尊厳、性別、人種、民族、宗教、障害等に関わりなく公平に扱われ、自己の経済的権利に相応する待遇とされるべきである。